

平成 28 年度 全国獣医師会事務・事業推進会議の概要

I 日 時：平成 28 年 7 月 8 日(金) 14:00～16:35

II 場 所：明治記念館 2 階「孔雀」

III 出席者：

1 全国 54 都道府県市獣医師会

担当役員・事務局職員

2 日本獣医師会

会 長：藏内勇夫

副 会 長：酒井健夫

専 務 理 事：境 政人

全国獣医師会会長会議議長：高橋三男

全国獣医師会会長会議副議長：宮澤 宏

顧 問：北村直人

事務局職員：14 名

3 日本獣医師政治連盟活動報告

4 農林水産省説明

V 概 要

【開 会】

日本獣医師会事務局の司会で、次のとおり会議が進められた。

【開会の挨拶】

藏内会長から以下の挨拶が行われた。

本日は、全国獣医師会会長会議の高橋三男議長、宮澤宏副議長にもご出席をいただいております。私は日本獣医師会を運営する中で、日本獣医師会は地方獣医師会の応援団であり、地方獣医師会は日本獣医師会をしっかりと支えていかなければならないという関係で事業を推進していきたいと、そういう思いで今日まで取り組んでまいりました。地方獣医師会を高橋、宮澤正副議長にまとめていただき、意思の疎通を図っていただいているところであります。この場をお借りし、心から厚く御礼を申し上げます。

私は、獣医学教育を充実させ、獣医師の環境を改善し、獣医師の地位向上や公務員獣医師の処遇改善を図り、日本獣医師会及び会員獣医師がわが国の負託に応えられる組織や獣医師でありたい、そういったことを標榜して今日まで運営にあたってまいりました。地方獣医師会からいただく要望やご意見等につきましては、日本獣医師会内に 7 つの部会を設けて論議をし、国や大学等に対する意見等を述べているところです。さらに、日本獣医師会として時間をかけずにスピード感をもって対応していかなければならない課題につきましては、期間を 2 年と限定して特別委員会を設置し、その間に一つの目標を達成するといった取組みを行ってまいりました。前期には、女性獣医師支援、医師会との連携、狂犬病の 3 つの特別委員会を設置させていただき、2 年間でそれぞれ一つの整理をつけさせていただきました。そして 2 期目に入り、人と動物の共通感染症、さらにわれわれにとってこれから最も大事な課題として捉えなければならないマイクロチップの 2 つの特別委員会に集約いたしまして、取組みを進めているところであります。いずれの課題も地方獣医師会の協力なしには前進できないものですので、本日お集まりの事務局の皆さま方には日本獣医師会役員一同、心から感謝を申し上げ、さらなるご支援をお願い申し上げます。

さて、災害はいつ発生してもおかしくないという例え

IV 説明・報告事項

1 日本獣医師会説明事項

(1) 平成 28 年度事業計画

(2) 獣医学術学会事業関係

ア 学会組織と事業運営の状況

イ 獣医学術学会年次大会・同地区学会の開催

(3) 獣医学術講習会研修会事業

(4) 獣医師生涯研修事業

(5) 獣医事対策等国内外連携交流推進事業

ア 第 2 回世界獣医師会—世界医師会“One Health”に関する国際会議の開催

イ 国際獣疫事務局（OIE）による獣医組織能力評価の実施について

ウ 医師会との連携に関する対応

(6) 獣医事対策等普及啓発事業

ア 2016 動物感謝デー in JAPAN

イ 日本獣医師会動物愛護週間関連行事褒賞事業

(7) 動物福祉適正管理施策支援事業

ア 動物適正管理個体識別登録等普及推進事業

(8) 熊本地震に係わる対応

(9) 部会委員会等運営事業

(10) 獣医療証明様式提供事業

(11) 日本獣医師会獣医師福祉共済事業

ア 生命共済保険事業

イ 獣医師賠償共済事業

2 決議要望事項

(1) 平成 27 年度地区大会決議・要望事項等に対する対応

のとおり、まさか熊本でそのような大災害が発生するとは予想できませんでした。われわれ日本獣医師会の役員はたまたま九州災害時動物救援センターの視察を行った夜、第一波に見舞われました。私はその後も引き続きその現場に残ったものですから、あのマグニチュード7の本震に遭遇しました。山鳴りという言葉がありますが、地震が発生する前にゴーンという音が鳴りまして、それが近づいてきたと思ったらダーンと爆発音のような音がして、そしてガタガタガタと揺れ始めました。建物が45度にも揺れますので、いつ屋根が落ちてくるかと心配をいたしました。まっとうに立ってられません。急いで外に飛び出して駐車場に避難しましたが、駐車場に密生している高い樹木が風速30mの時の木々の揺れと同じような揺れ方をしておりました。車の中に避難をして朝まで車中で過ごしたのですが、30回以上も揺れが続いており、とても恐ろしい思いをしました。まさに備えあれば憂いなしという例えのとおり、われわれは災害に対する知識、対策、訓練等を日頃から行っておかなければならないという思いをあらためて強く抱きました。

私は東日本大震災の経験を経まして、災害時の恒久的な動物保護センターを日本各地のブロック7~8カ所に作るべきであると環境省の動物愛護審議会でも申し上げるとともに、取組みを進めてまいりました。まず九州地区獣医師会連合会と検討し、九州に第1号のセンターを設立しようと研究してまいりまして、大分県九重町の元九州電力のキャンプ場跡を改修し、1年間かけてボランティアを養成し、施設を整備しようと計画し、本年3月中旬に大分県獣医師会の麻生会長同席のもと、大分県の広瀬知事と災害協定を締結し記者会見を行いました。その1カ月後、まさか熊本でこのような地震が発生するとは想定できませんでした。そこで1年前倒しして一部だけ開設するべく、東京都獣医師会はじめ地方獣医師会のご協力をいただきまして、6月の初旬に一部を開設することができ稼働しているところです。今後、災害や家畜防疫など一つの県だけではなかなか対応できない状況が発生した際には、連携を深めてそれぞれの地方獣医師会が常日頃からいろいろな情報交換、シミュレーションをしていくことが大事であると強く感じているところです。

また、今年の11月10日と11日、人と動物の共通感染症、薬剤耐性菌、アニマルセラピー等、いわゆる動物と人間の健康を守る“One Health”に関し、第2回の国際会議を北九州市で開催することになりました。第1回の国際会議は昨年5月、スペインのマドリッドで開催されましたが、私と日本医師会の横倉会長とで出席をさせていただき講演をいたしました。40カ国以上の医師、獣医師はじめ、関係者が集った国際会議でありましたが、わが国に高い関心を持っていただき、ぜひ2回目を

日本で開催できないかというオファーをいただきました。中でも日本医師会と日本獣医師会が提携し、しかもその動きが全国に輪を広げていて地方会が同じような提携を結んでいることに世界各国の関心が集まっております。世界の方々が、ぜひ自分たちも“One World, One Health”を求めらる中でそういった取組みをしたいといったこともあり、わが国での開催の運びになりました。この件につきましても地方獣医師会の皆さま方のおかげで、今日までに39の地域で医師会と獣医師会の協定を結んでいただきました。近々2地域で協定が結ばれる予定ですので、41の地域で結ばれることとなります(平成28年7月8日現在)。私は、できれば11月の2nd GCOHの開催までに47都道府県にこのネットワークを作り、このネットワークを通じて人と動物の健康を守るためのメッセージを、日本国内はもちろんアジアを通じて世界各国に発信をしていきたいと考えております。これも国際化を迎えたわれわれの日本獣医師会の役割であり、日本獣医師会の取組みを世界に知らせる格好の機会ではないかと思っていますところですが、

われわれは多くの課題を抱えているところですが、その全てが政治的に解決をしていかなければならない問題ばかりであります。以前は日本獣医師会の会長が日本獣医師政治連盟の委員長を兼任しておりましたが、わが日本獣医師会が公益社団法人となり政治連盟との明確な分離を図ったことから、政治的な経験が非常に豊かで大先輩である北村直人先生に日本獣医師政治連盟の委員長をお引き受けいただきました。政治連盟の委員長はじめ役員の方々には、日々、官邸をはじめとした多くの団体と交渉いただいております。さらに選挙が始まりますと全国に足を運んでいただき、各地方獣医師会のご支援の中で選挙を戦っていただいております。このことは政権与党にも高く評価されておりました。私もさまざまところで大臣やその他の方々から、政治連盟に大変お世話になっておりますといった言葉をいただけるようになりました。大変ありがたいことだと思っていますところですが、

本日は限られた時間ではありますが、われわれの活動計画等を皆さま方と意見交換させていただく会です。時間の許す限り忌憚のないご意見をお寄せいただければありがたいと思っております。

どうか本日の会議が実り多いものになりますように皆さま方のご協力を心からお願い申し上げまして、会長としての挨拶とさせていただきます。

続いて、高橋三男全国獣医師会会長会議議長から以下の挨拶が行われた。

私たち地方獣医師会の会長は、日本獣医師会蔵内会長のご指導の下、日本獣医師会と地方獣医師会との一体感を持ちながら、会員獣医師の負託に応えるべく事務職

員の皆さま方と心をつにして活動を繰り広げております。

私も開業して何十年という月日が経過いたしました。私の開業当時は、「産業動物よさようなら、小動物よこんにちは」と、巷ではこんな言葉を耳にしたところでした。その後、わが国の経済発展とともに、心の豊かさを家庭動物に求めるということで、小動物の診療分野が進展しました。しかしかつては、戦後の畜産の振興、良質なたんぱく質の供給ということで、国策として目的を畜産振興一つに絞り、獣医師はわが国の発展に寄与いたしました。そういった大きな変遷を経ながら、現在、われわれ獣医師を取り巻く環境は、55の地方獣医師会が皆さま方を中心として地域に密着した獣医師会を構成しているところでした。

藏内会長は3年前に日本獣医師会会長に立候補され、全国の皆さま方から支持をいただき、獣医師会会長として、学識経験、政治的な執権性等をフルに活用しながら、日本獣医師会の会長として皆さまの先頭に立たれています。その中で、全国の地方獣医師会と日本獣医師会との一体感や共有感を作りたい、そのためには例年開催される全国獣医師会会長会議を中心として、地方獣医師会からの生の声をしっかりと受けて獣医師会の運営を図りたいと申されました。全国獣医師会会長会議の議長として、宮澤副議長と二人三脚で大役を務めてまいります。

日本獣医師会の役員として、学問的な問題に対しては日本大学の総長であられた酒井健夫副会長、政治的には元農林水産副大臣で衆議院議員を6期務められた北村直人日本獣医師政治連盟委員長、そして一年前に農林水産省の課長を務められた行政色豊かな境 政人専務理事を迎えました。私が地方獣医師会の一会長としてこの日本獣医師会の現況をみるならば、鬼に金棒、これほど素晴らしいスタッフの叡智を結集すれば、何事も成しえるのではないかと思います。そのためには、日本獣医師会の課題、地方獣医師会の声をお集まりの皆さま方とともに共有することが重要です。地方獣医師会の事務局長、専務理事、事務職員の方、こういう方々の力がなければ、何一つとして地方獣医師会の運営ができないことは私は身をもって経験しております。本日は、日本獣医師会と地方獣医師会の絆をしっかりと確立したいということから、埼玉県獣医師会からは役職員6名が参りました。日本獣医師会と地方獣医師会の皆さまが接着剤となるために、本日は日本獣医師会と地方獣医師会が大いに意見交換を行っていただきたいと思っております。

【議 事】

1 日本獣医師会説明事項

(1) 境専務理事から挨拶及び平成28年度事業の概況について説明が行われた。

(2) 事務局担当者から、順次、以下の説明が行われた。

①獣医学術学会事業関係として、平成28年度獣医学術学会年次大会及び獣医学術地区学会の開催、地区学会賞選考演題数、日本獣医師会学会学術誌への投稿の推進、地区学会への学会正副会長の出席予定について

②獣医学術講習会研修会事業として、獣医療提供体制整備推進総合対策事業に係る研修・講習会、産業動物臨床・小動物臨床・獣医公衆衛生の講習会について

③日本獣医師会獣医師生涯研修事業として、獣医師生涯研修センターシステムの利用について

④獣医事対策等国内外連携交流推進事業として、第2回世界獣医師会—世界医師会“*One Health*”に関する国際会議の開催とそのプログラム、国際獣疫事務局(OIE)による獣医組織能力評価、医師会との連携に関する対応について

⑤獣医事対策等普及啓発事業として、2016動物感謝デー in JAPANの開催の概要、日本獣医師会動物愛護週間関連行事褒賞事業について

⑥動物福祉適正管理施策支援事業として、動物適正管理個体識別登録等普及推進事業について

⑦熊本地震に係わる対応として、これまでの熊本県地震への日本獣医師会の対応の経過について

⑧部会委員会等運営事業として、特別委員会と部会委員会の開催状況について

⑨獣医療証明様式提供事業として、これまでの発送代行業者の変更について

⑩日本獣医師会獣医師福祉共済事業として、生命共済保険事業、獣医師賠償共済事業についての概要

(3) 地方獣医師会から、①産業動物のマイクロチップのデータ登録を行っている団体、②牛の耳標のマイクロチップ化の際の移動や異物となる恐れ、③獣医療提供体制整備推進事業におけるNOSAIの協力について、質問・確認が行われた。

2 決議要望事項

事務局から、平成27年度に実施された地区獣医師大会における決議要望事項等の内容とその対応の説明が行われた後、照会事項については地方獣医師会への照会時期が遅れたことから、後日改めて報告を行うことが説明された。

3 日本獣医師政治連盟活動報告

北村直人日本獣医師政治連盟委員長から以下の報告が行われた。

7月10日の参議院議員選挙の投票日を目前に迎えまして、ぜひ55の地方獣医師会のご協力をいただきたく、

重ねてお願いを申し上げます。

ご承知のとおり、本年2月の秋田での政治連盟の総会の席において、参議院議員選挙への対応をご議論いただき決定いたしました。一つは、全国区については統一候補を推薦し、地方獣医師会においては今までのお付き合いの中で、推薦を希望する候補については、地方獣医師会が責任をもって推薦し協力することを決めさせていただきました。その他、地方区の参議院議員については、それぞれの都道府県が責任をもって推薦し協力するということで決めさせていただいたところです。政権与党を推薦し、そして協力していくということです。これにつきましては、皆さま方55の地方獣医師会にパンフレット、ポスター等々の配布や掲示についてご苦勞をかけ、また、ご協力をいただきましたことに心から感謝と御礼を申し上げます。

特に選挙はがき用の名簿の提出につきましては、本当にお忙しい中、ご協力をいただいた55の地方獣医師会の皆さま方、事務局の皆さま方に心から感謝と御礼を申し上げる次第です。さらに自由民主党による重点候補の地区に挙がっている地方獣医師会の皆さま方には、メール等々で頑張っていたきたい、ということで配信させ

ていただいております。その中でも最重点候補につきましては、委員長自らが伺い地方獣医師会の皆さまのお力添えをいただいて関係者へご挨拶に伺ったところです。また、自由民主党の幹部の先生方が直接地方獣医師会の事務所を訪問して会長、副会長、常務理事、専務理事等々の先生方と意見交換をさせていただきながら、選挙の応援・支援をさせていただきました。

これらのことを合わせますと、相当な精力をもって地方の政治連盟の皆さま方にはご協力をいただきました。今朝の新聞をみますと、それでもなかなか厳しい状況であり、横一線といわれる候補者もいらっしゃいます。本日説明をいたしました事業の推進にあたっては、政治力が必要な場面が多々出てまいります。どうぞこのことを念頭に置いていただき、残り3日間、皆さま方が信ずる政党、信ずる候補者に、投票していただくことを重ねてお願い申し上げます。

4 農林水産省説明

農林水産省経営局の中本保険管理官補佐から、農業共済団体と指定契約を結んでいる獣医師（指定獣医師）の必要事務の見直し案について説明が行われた。